

荒川流域エコネット地域づくりの推進

—令和3年度 取り組み結果・令和4年度 取り組み計画（案）—

1. 本年度の取り組み結果

- (1) プラン①「合同生きもの調査の実施」に関する本年度活動結果
- (2) プラン②「ゴミ・外来種問題への対応」に関する本年度活動結果
- (3) プラン③「環境学習・観察会の推進支援」に関する本年度活動結果
- (4) プラン④「各種広報の展開」に関する本年度活動結果
- (5) プラン⑤「エコツアーの推進支援」に関する本年度活動結果
- (6) プラン⑥「関係者間のネットワーク支援」に関する本年度活動結果
- (7) 地域関係者による本年度取り組み事例（情報共有）

2. 来年度の取り組み計画（案）

- (1) 生物の生息場環境保全に関する取り組み計画（案）
- (2) 地域振興・経済活性化に関する取り組み計画（案）

参考. 前回までの議事概要（主な意見・指摘と取り組み方針について）

第2回 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

令和3年度 第1回 荒川流域エリア・ワーキング

令和3年度 第2回 荒川流域エリア・ワーキング

1. 本年度の取り組み結果報告 ～生物の生息環境保全に関するプラン～



(1) 「合同生きもの調査の実施」に関する本年度活動結果

1) 目指すもの（10年後）

- ◎エリア内の環境データが蓄積され、各種取り組みの検討・実施に役立っていること。
- ◎また、調査の実施を通じ、取り組み認知度が向上（理解者・賛同者の増加）していること。

2) R3年度 取り組み結果

【年度当初予定】

- ① 協議会関係者による生物調査に関する情報収集（ニーズに合わせて情報共有）
- ② 水田調査体験会の開催（およびその推進に関する調整・検討・広報等）

①協議会関係者による生物調査に関する情報収集

- WG関係者を対象に情報提供をお願いし、以下のとおり、エリア内における生物調査の実施状況を把握した。なお、情報発信（相互参加の呼びかけ）は、感染症予防の観点から、本年度は実施しなかった。

【R3 協議会関係者による主な生物調査の実施状況】

- 高尾カタクリ自生地調査（4～7月）【北本市】
- クビアカツヤカミキリ発見大調査2021（6/25～8/31）県内全域【埼玉県環境科学国際センター】 ※県内在住・在勤・在学者から確認情報提供を募るもの
- 動植物調査（通年）市内全域【鴻巣市】
- 河川・水田の生きもの調査（通年）市内全域【鴻巣市】
- 河川水辺の国勢調査・基図調査（秋季）荒川上流管内【荒川上流河川事務所】
- 各種事業モニタリング調査（適宜）荒川上流管内【荒川上流河川事務所】

- 今後の生物調査の促進検討に活かすため、地域関係者による以下の現地活動を取材させていた。

- 5月：北本市 緑のトラスト保全第8号地（トラスト8号地里山保存会）地域の小学生の田植え体験
- 5～6月：鴻巣市吹上地区・小谷地区（鴻巣こうのとりを育む会）水田魚道整備などの農地環境保全対策

- 次年度以降の取り組み推進に向けた意見交換のため、生物調査を連携・促進するための支援対策事例について以下のとおり整理した。

【生物調査を促進するための支援事例（インターネット検索等）】

- 調査用資機材の貸出し（タモ網、バケツ、バット、ライフジャケット、調査用のぼり旗等）
- 調査講師の派遣（出前講座の受け付け）
- 調査体験会の実施
- 調査結果データの収集・蓄積・解析・広報
- 調査方法解説用の手引きや動画の作成・配信
 - A) コウノトリの餌生物量調査マニュアル[河川版]（関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会）
https://www.ktr.mlit.go.jp/river/chiiki/river_chiiki00000035.html
 - B) コウノトリの餌生物量調査マニュアル[農地版]（関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会）
https://www.ktr.mlit.go.jp/river/chiiki/river_chiiki00000035.html
 - C) 田んぼの動物量調査の手引き（コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会）
https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa_index021.html
 - D) 田んぼの動物量調査の手引き 解説動画（コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会）
<https://www.youtube.com/watch?v=W99L9sdUxHQ&t=89s>



A～C) 調査手法の解説用資料



D) 調査手法の解説用動画

②水田調査体験会の開催等

- 関東エコネットで公表されているコウノトリ餌生物量調査の手引きを参考にした水田調査体験など、河川～水田の連続性を学ぶことを目的とした調査の体験会を実施した。なお、当初、参加者公募（地域の親子など）を予定していたが、感染症予防に配慮し、協議会・WG関係者のみで来年度の企画確認や意見交換などを目的として、荒川自然再生地（大間地区）の視察も含めて実施した。

【場 所】鴻巣市コウノトリ野生復帰センター～吹上地区水田～荒川大間地区（荒川流域ネットワーク川島委員、鴻巣市のご協力による）

【日 時】令和3年7月20日（火）9:30～12:00

【参加者】本推進協議会・WG関係者 約25名

【広 報】開催結果はニュースレター（準備号）にとりまとめた

※本年度は、感染症予防に配慮し、参加者公募が実施できなかったことから、ニュースレターは「準備号」として作成し、協議会関係者に限定した情報共有とした。

■水田調査体験会 行程（2021.7.20）

項目	時刻	内容
①施設見学	09:30～10:00	●コウノトリ野生復帰センターについて《鴻巣市》 ●コウノトリについて《高木委員》
移動	10:00～10:15	調査水田へ移動
②水田調査体験	10:15～10:45	●環境保全型農業等の取り組みご紹介《川島委員》 ●水田・水路の生物採捕作業、水生生物観察《事務局》
移動	10:45～11:15	荒川現地へ移動
③現地見学	11:15～11:30	●荒川大間地区の湿地づくりご紹介《荒川上流河川事務所》
④河川調査体験	11:30～12:00	●河川の魚類観察（連続性指標種を解説）《事務局》
閉会	12:00	●意見交換《参加者全員》 ●総評《浅枝協議会長》

【意見交換の概要】

- 地域関係者による各種取り組みがコウノトリの定着につながるよう、より一層、連携がすすむとよい。
- 今日みたような生きもののいっぱいの荒川を、次年度以降は、ぜひ、子どもたちなど地域の皆さんに体験してもらいたい。
- 今後の活動協力の検討にあたって、実際にどのような体験が提供できるか、よくわかってよかった。



コウノトリ野生復帰センター見学



水田の動物量調査体験



現地意見交換

【当日観察できた主な動物類】

- 吹上地区水田（田んぼと水路）： コイ、ギンブナ、ドジョウ、ミナミメダカ、ヨシノボリ類、ミズカマキリ、コガムシ、ヒメガムシなど
- 荒川大間地区（流入水路周辺）： ナマズ、コイ、ギンブナ、タモロコ、ツチフキ、オイカワ、アブラハヤ、ドジョウ、タイリクバラナダゴ、モツゴ、トウヨシノボリ類、ブルーギル、ミシシippアカミミガメなど





1. 本年度の取り組み結果報告 ～生物の生息場環境保全に関するプラン～

(2) 「ゴミ・外来種問題への対応」に関する本年度活動結果

1) 目指すもの (10年後)

◎エリア内において、環境美化活動とともに、外来種駆除活動が実施（実施回数・場所の増加）されるようになること。

2) R3年度 取り組み結果

【年度当初予定】

- ①協議会関係者による清掃活動・外来種駆除に関する情報収集
- ②ゴミ・外来種対策の連携実施に関する検討

①協議会関係者による清掃活動・外来種駆除に関する情報収集

●WG関係者を対象に情報提供をお願いし、以下のとおり、エリア内における、清掃活動・外来種駆除の実施状況を把握した。なお、情報発信（相互参加の呼びかけ）は、感染症予防の観点から、本年度は実施しなかった。

【R3 協議会関係者による主な清掃活動・外来種駆除の実施状況】※中止を含む

●河川清掃

【春期】●3月 元荒川清掃（ふきあげ環境フォーラム）／●6月 元荒川清掃（ボーイスカウト鴻巣第2団・川の国応援団活動）

【秋季】●8～9月 綾瀬川クリーン活動（桶川市）／●9月 元荒川清掃（ボーイスカウト鴻巣第2団・川の国応援団活動）／●11月 荒川クリーン活動（荒川クリーン協議会）／●11月 元荒川ウォークごみ拾い（鴻巣の環境を考える会）／●11月 コスモス清掃（ふきあげ環境フォーラム）／●11月 市野川クリーンアップ作成（市野川クリーンアップ作戦協議会）／●11月 安藤川クリーン作戦（安藤川をきれいにする会）／●11月 越辺川河川清掃（越辺川を守る会）

●市内・町内清掃

【鴻巣市】●5月 春のクリーン鴻巣市民運動、●5～6月 春のゴミゼロ運動月間、●10月 秋のクリーン鴻巣市民運動（鴻巣市環境衛生連合会・各自治会）／【北本市】●5～6月 快適な環境づくり運動、●8～11月 環境美化運動（北本市・各自治会）／【桶川市】●9～10月 桶川クリーン活動／【吉見町】●5・7・12月 町内一斉清掃（吉見町・各自治会）／【川島町】●6・10・12月 町内美化活動（川島町・各自治会）

●外来種対策

- 8月：吉見町スクミリンゴガイ駆除作業【吉見町農作物病害防除協議会】
- 随時：オオキンケイギクなどの外来植物駆除の呼びかけ、および除去処分【各自治体】

●今後のゴミ・外来種対策の連携促進の検討に活かすため、地域関係者による以下の現地活動を取材させていただいた。

- 8月：吉見町 スクミリンゴガイ駆除活動（吉見町農作物病害防除協議会）町内の水田・水路のスクミリンゴガイの駆除
- 10月：川島町 越辺川を守る会 河川清掃・外来種対策の連携促進に向けた意見交換
- 11月：桶川市 荒川クリーン活動（荒川クリーン協議会）

⇒取材させていただいた活動状況はニュースレター（準備号）にとりまとめた。



吉見町 スクミリンゴガイ駆除活動



川島町 越辺川清掃活動場所近傍



桶川市 荒川クリーン活動

【河川清掃・外来種対策への取材や協議会関係者へのアンケートで得られた意見】

- 事前周知のうえ、外来種の専門家の参加があれば、清掃活動時に外来植物を駆除することは可能と思う。
- 外来植物駆除を河川清掃時に行うことは、対象種を見分ける点で難しいと思われる。花期で見分けやすい場合や、解説者がいれば可能かもしれない。資料を配布して持ち帰ってもらうことは可能ではある。
- 資料だけ配っても分かりづらいので、事務局が参加して、外来植物の見分け方などを説明するとよい。
- 「これが外来種」ということを現地で説明してもらうのは、河川清掃に参加される皆さんは環境への意識が高い方のため、意義があると思う。
- コウノトリが飛来する地域は自然豊かな地域であるということについて、河川清掃や町内美化活動の参加者の方は環境に興味がある方々なので、外来植物とあわせコウノトリ関連の取り組みについてもPRされるとよいと思う。
- 清掃時のゴミとあわせて、抜き取った外来植物も運搬・処分することは（処分量が多すぎない限り）可能ではあるが、限られた人員・時間で作業している活動の場合、外来植物の除去作業にまで人手が回らないと思う。
- アライグマ、スクミリンゴガイによる農業被害に困っている。
- オオキンケイギク、アメリカオニアザミ等の外来植物について、広報等で市民・町民に除去を呼びかけている。問い合わせが集中する繁茂期には、職員等の除去対応に苦慮している。オオキンケイギクの効果的な駆除方法があれば知りたい。

②ゴミ・外来種対策の連携実施に関する検討

●上記を踏まえ、次年度以降、清掃活動時に配布したり、あわせて現地学習を行う際に活用することを想定し、以下の資料を作成（または収集）した。なお、これらの資料は上記の取材・意見交換で素案として配付した。

- 新規作成：荒川流域エリアの外来種問題啓発用リーフレット
- 新規作成：荒川流域エリアのオオキンケイギク駆除啓発用リーフレット
- 参考資料：海洋プラスチック問題啓発用パンフレット（埼玉県水環境課）



荒川流域の外来種問題啓発用リーフレット 「知ってほしいな荒川流域の外来種」

- ・清掃活動時等に参加者に配布し、外来種問題について知ってもらうことを目的とする。
- ・河川清掃時には、事務局スタッフ等が解説役として参加し、現地で外来植物の見分け方等を補足説明することも想定する。

オオキンケイギク駆除啓発用リーフレット 「きれいな花だけ…特定外来生物オオキンケイギクかも」

- ・清掃活動の参加者配布を含め、各自自治体で実施されている駆除啓発に活用してもらうことを目的とする。
- ・河川清掃時には、事務局スタッフ等が解説役として参加し、現地でオオキンケイギクの駆除方法等を補足説明することも想定する。



1. 本年度の取り組み結果報告 ～生物の生息場環境保全に関するプラン～

(3) 「環境学習・観察会の推進支援」に関する本年度活動結果

1) 目指すもの (10年後)

- ◎エリア内において、環境学習・自然観察会が、いまより広く・数多く実施され、地域の学習機会が増えていること。
- ◎また、それにより取り組み認知度が向上（理解者・賛同者の増加）していること。

2) R3年度 取り組み結果

【年度当初予定】

- ①協議会関係者による環境学習・観察会に関する情報収集
- ②次年度以降の環境学習・観察会の推進支援に関する意見交換（WG等で実施）

①協議会関係者による環境学習・観察会に関する情報収集

- WG関係者を対象に情報提供をお願いし、以下のとおり、エリア内における環境学習・観察会に関するの実施状況を把握した。なお、情報発信（相互参加の呼びかけ）は、感染症予防の観点から、本年度は実施しなかった。

【R3 協議会関係者による主な環境学習・観察会の実施状況】※中止を含む

●自然観察会（生物観察等）

- 【鴻巣市】●6～8月 生きもの観察会（鴻巣市委託事業）、●2月 野鳥観察会（鴻巣市委託事業）
- 【桶川市】●6月ごろ ホタル翔ぶゆうべ（桶川市後援）
- 【北本市】●7月 野外活動センター・ホタル観察会（北本市）
- 【吉見町】●小学校による遠足・自然観察会の適宜実施（吉見町）
- 【川島町】●9月 太郎右衛門の自然体験講座（荒川太郎右衛門地区自然再生協議会・日本生態系協会・川島町）
- 【埼玉県】●埼玉県自然学習センター「定例自然観察会（ほぼ毎週程度）」（埼玉県委託事業）

●自然体験活動（河川レジャー、営農体験等）

- 【鴻巣市】●5月 元荒川カヌー環境教室、6月 親子カヌー体験環境教室（鴻巣市・協力団体・元荒川榎戸堰公園）
- 【北本市】●5月・10月 緑のトラスト保全第8号地 田植え・稲刈り体験（北本市・トラスト8号地里山保存会・地元小学校）
- 【川島町】●小学校による自然体験学習の適宜実施（例：荒川ハンノキプロジェクト参加、田植え・稲刈り、野菜づくり、虫とり、ザリガニ釣り、環境科学国際センター見学等）（川島町）

②次年度以降の環境学習・観察会の推進支援に関する意見交換

- 次年度以降の取り組み推進に向けた意見交換のため、WG関係者を対象に、環境学習・観察会を実施する場合に「あると便利だと思う支援策（情報・人・もの）」について、協議会関係者を対象に意見を募った。

【環境学習・観察会を実施する場合の支援策アイデア（アンケートで得られた意見）】

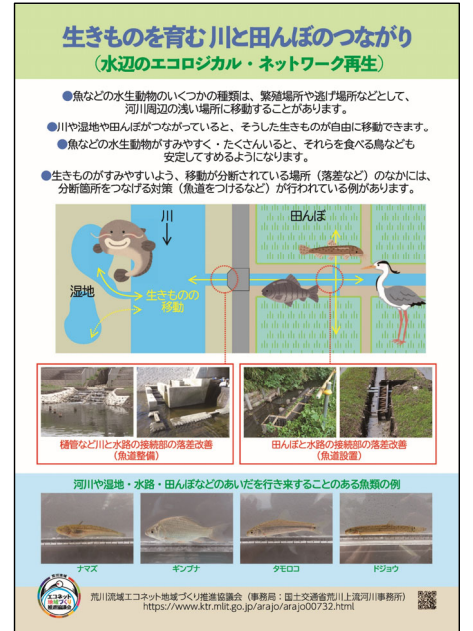
- 環境学習（自然観察会、ピオトップ）等を実施できる場所の提供・紹介
- 観察できた生きものを見分けるための専門家の派遣
- ゲストティーチャーの紹介（現地に詳しい方）
- 講座を実施できる団体の紹介リスト
- 学習資料の提供や備品貸出
- 環境学習・観察会イベントの開催にあたっては、年々、予算・人員の確保が難しくなっている課題がある

- また、次年度以降、環境学習・観察会等で使用することを想定し、以下の資料（案）を作成するとともに、本年度の水田調査体験会（R3.7.20：p2参照）で試行的に使用した。



コウノトリの生態紹介用ポスター・パネル 「コウノトリってどんな鳥」

- ・観察会・環境学習、および地域関係者の各種施設で広く配布・展示してもらうことで、取り組み指標種であるコウノトリについて広く知ってもらうことを目的とする。
- ⇒WG確認後、地域関係者へ配布し、施設・イベント等で展示・配布していただくことを想定する。



河川・水田ネットワークの解説用パネル 「生きものを育む川と田んぼのつながり」

- ・エコロジカル・ネットワークに関する観察会・学習会で、横断ネットワーク構造の解説に使用してもらうことを目的とする。
- ⇒次年度以降、水田調査体験会での使用や、協議会関係者へのポスター提供、パネル貸出しを想定する。

【学習会・観察会等への支援事例（インターネット検索等）】

- ◎講師の派遣や紹介（出前講座、専門家による講義…等）
- ◎活動用資機材の提供や貸出し（調査用のぼり旗や腕章、子ども用ライフジャケットや胴長、折り紙などのクラフト教材、生きもの解説記入下敷きやクリアファイル…等）
- ◎教材資料の提供や貸出し（生きもの見分け方資料の配布、調査方法の解説用動画の配信…等）
- ◎観察会等の行事カレンダーの配信（告知用FaceBookページの運用、活動拠点でのカレンダー配布・掲示…等）
- ◎YouTubeを活用した学習支援（日橋委員より情報提供）：東京ZoovieYoutubeチャンネル「かんさつのヒント・コウノトリの保全活動」《https://www.youtube.com/watch?v=uU5-Rn2BXSA》

1. 本年度の取り組み結果報告 ～地域振興・経済活性化に関するプラン～

(4) 「各種広報の展開」に関する本年度活動結果

1) 目指すもの(10年後)

◎エリア内において、取り組み認知度が向上し、荒川流域エコネット地域づくりへの新たな理解者・賛同者・参加者が増えていること。

2) R3年度 取り組み結果

【年度当初予定】

- ①各自治体・団体のイベント情報の収集・整理
- ②本取り組みPR資料の作成
- ③流域内外の環境イベントでのPR検討

①各自治体・団体のイベント情報の収集・整理

●各自治体が独自で実施している環境関連のイベントや拠点等について情報を収集・整理した。

自治体	PRしたい環境関連イベントや拠点	作成したPR資料を展示できる施設
鴻巣市	●鴻巣市コウノトリ野生復帰センター	●鴻巣市コウノトリ野生復帰センター
桶川市	●ホテル翔ぶゆうへ(毎年6月開催市後援(令和3年度中止))	●市庁舎および関連教育施設等
吉見町	—	●道の駅いちごの里よしみ ●フレサよしみ・図書交流館 ●フレンドシップハイツよしみ ●吉見総合運動公園 ●吉見百六・埋蔵文化財センター ●各公民館・ふれあいセンター、各小学校・中学校

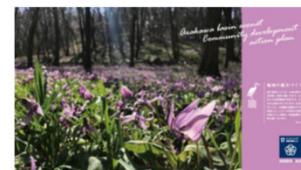
※: R3年度第1回行政担当者会議後のアンケート結果を整理

②本取り組みPR資料の作成

●アクションプランについての広報用デジタルサイネージ動画、及びパネルの製作を行った。



■広報用デジタルサイネージ動画(5タイプ)

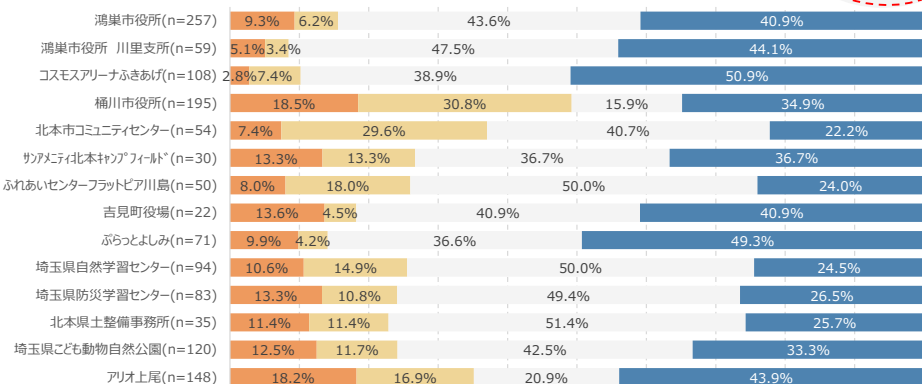


※写真パネルは全15枚作成

■荒川上流エコネットとSDGsの関連をイメージした写真パネル原稿を製作

●ロゴマーク案を作成し、案に対する一般人気投票(各地の施設にパネル設置)を実施した。

⇒投票結果を踏まえ、人気の高いC案・D案を状況に応じて使い分けながらPR資料等のロゴマークとして活用していく。



施設別投票割合 (N=1,326)

③流域内外の環境イベントでのPR検討

●②で作成したPR資料を活用し、流域内の複合店舗にて広報展示を行った。複合店舗での展示は、今後も継続的に実施予定。

⇒R3年度は緊急事態宣言の発出期間が長かったため、各自治体・団体の環境イベントは中止・延期となり、PR展示は実施しなかった。

1. 本年度の取り組み結果報告 ～地域振興・経済活性化に関するプラン～

(5) 「エコツアーの推進支援」に関する本年度活動結果

プラン⑤

1) 目指すもの(10年後)

◎エリア内において、自然環境を活用した地域観光が実施されていること(新たな集客要素の提供による地域活性化への貢献)。



2) R3年度 取り組み結果

【年度当初予定】

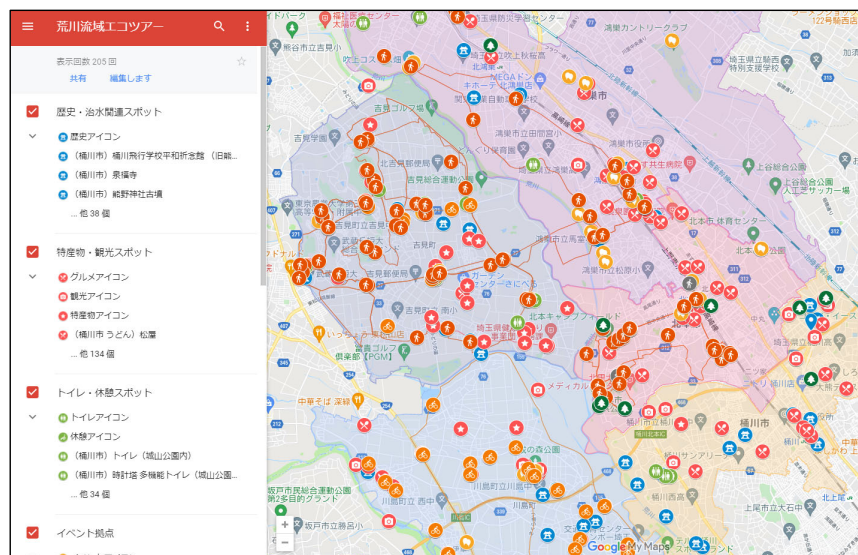
- ①流域共通マップの作成検討
- ②川の営みに関連する特産品・歴史情報の収集・整理
- ③各自治体の観光メニューと、荒川流域エコネットの関連付けによる取り組み支援

①流域共通マップの作成検討

- 各自治体の観光スポット、サイクリング・ウォーキングコース等、各自治体の観光情報を集約した流域共通マップ(Googleマイマップ)のデータベース版を作成した。

②川の営みに関連する特産品・歴史情報の収集・整理

- 各自治体の特産品や治水関連スポット等の情報を収集整理した。整理結果は①流域共通マップ作成に活用した。



- | | |
|----------------------|---------------------|
| ●:歴史・治水関連スポット | ●:イベント拠点 |
| ●:歴史・治水関連スポット | ●:イベント拠点 |
| ●:特産物・観光スポット | ●:サイクリングルート |
| ★:特産物 ●:観光スポット ✕:食事処 | ○:サイクリングルート ○:遊歩道 |
| ●:トイレ・休憩スポット | ●:立寄りスポット ●:立寄りスポット |
| ●:トイレ ●:休憩スポット | ●:巨木 ●:巨木 |

■作成した流域共通マップ(Googleマイマップ)データベース版

- 流域内複合店舗主催の物産展(地産地消)とコラボした広報展示・ワークショップ(W S)を企画した。

③各自治体の観光メニューと、荒川流域エコネットの関連付けによる取り組み支援

- 観光情報等を収集すべき観光関連部署・団体について各自治体へのアンケートにより情報収集を行った。
⇒R3年度は緊急事態宣言の発出期間が長く、観光関連の情勢も芳しくなかったため、観光関連部署・団体へのヒアリングは行わなかった。
⇒新型コロナウイルス感染者数の状況、観光関連の情勢(Go to トラベルなど)を踏まえ、適切な時期にヒアリングを実施していく。

■各自治体情報提供の観光関連部署・団体(R3年度第1回行政担当者会議後アンケート)

- | | |
|-------|-------------------------|
| 【鴻巣市】 | ●一般財団法人鴻巣市観光協会 |
| 【桶川市】 | ●桶川飛行学校平和祈念館 ●べに花ふるさと館 |
| | ●ソーラーオンザウォーター桶川(桶川市環境課) |
| 【北本市】 | ●北本市観光協会 |
| 【吉見市】 | ●産業振興課 |

(6) 「関係者間のネットワーク支援」に関する本年度活動結果

1) 目指すもの(10年後)

◎エリア内において、自然環境・地域振興に取り組む地域関係者間の新たな連携・交流が図られ、各自の取り組み発展に寄与していること。



プラン⑥

2) R3年度 取り組み結果

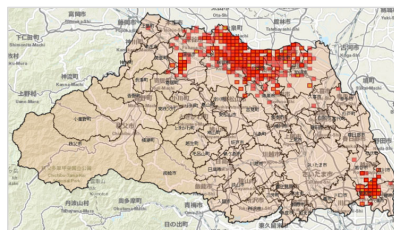
- プラン⑤の流域共有マップ(データベース版)は関係者間の情報共有ツールとして、今後活用していく。

1. 本年度の取り組み結果報告 ～地域関係者による本年度取り組み事例（情報共有）～

（1）生物の生息環境保全に関する取り組み事例

1）生きものの調査に関する取り組み

- 埼玉県では、2013年にクビアカツヤカミキリ（特定外来生物）によるサクラ被害が初確認された。この被害防止と注意喚起の情報発信とともに、2018年より県民参加型の調査「クビアカツヤカミキリ発見大調査」を実施、本年度にも県内から広く情報提供を募る調査を継続している。【埼玉県環境科学国際センター】
- 市内各地の水田・水路において、コウノトリ餌生物の資源量調査を実施している。【鴻巣市】



R2年度までにクビアカツヤカミキリによる被害が確認された地域（メッシュ情報）
（埼玉県環境科学国際センターHPより）

2）ゴミ・外来種問題に関する取り組み

- 各自治体・団体において、市内・町内清掃のほか、地域連携による河川清掃を行っている（p3再掲）。【各団体・市町】
- 町内水田において、スクミリングガイ駆除活動を実施している（p3再掲）。【吉見町】
- 広報紙やホームページを活用して、特定外来生物オオキンケイギク駆除の啓発を行っている。【桶川市、川島町、吉見町】



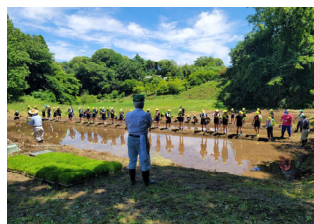
桶川市HPにおける
オオキンケイギク駆除啓発

3）環境学習・観察会に関する取り組み

- 地域の中学生を対象に、自然環境に関する出前講座を実施するなかで、エコロジカル・ネットワーク（本取り組み紹介）について解説している。【桶川市】
- 緑のトラスト保全第8号地において、地域の小学校が参加する田植え・稲刈り体験を行っている（北本市・トラスト8号地里山保存会・地元小学校）（p4再掲）。【北本市】
- 地域の小学校（川島町立つばさ南小学校3年生）の総合学習の一環として、三ツ又沼ビオトープを見学し、また、ハンノキとミドリシジミの関係を学習し、受け取った荒川の草花やハンノキのタネを学校で育てている（ハンノキプロジェクト参加）。【川島町】



スクミリングガイ駆除（吉見町）



小学校参加によるトラスト8号地の田植え（北本市）



小学校による荒川ハンノキ・プロジェクト参加（川島町）

4）その他の取り組み

- コウノトリ野生復帰センターにおいて、コウノトリ（埼玉県こども動物自然公園よりオス・メス計2羽）の飼育を開始している（R4年1月一般公開予定）。【鴻巣市】
- 荒川中流部（大間地区）におけるコウノトリ等の多様な生物が生息・生育できる湿地環境の再生整備を進めている。【荒川上流河川事務所】



コウノトリ野生復帰センター

（2）経済活性化・地域振興に関する取り組み事例

1）広報に関する取り組み

- 川島町で撮影した白鳥の写真を審査・表彰・展示する第5回川島町白鳥写真コンテストが行われた。【川島町】
- 吉見町役場のデジタルサイネージで、アクションプランについての広報用デジタルサイネージ動画の放映が行われている。【吉見町】



第5回川島町白鳥写真コンテスト
町長賞受賞作品（出典：川島町HP）



吉見町役場でのデジタルサイネージ動画の放映

2）エコツアーに関する取り組み

- 鴻巣市内に事業所を有する個人・法人（団体）による「コウノトリ」をイメージした新商品等の開発の取り組みに対して交付金を支給する「鴻巣市こうのとりのりブランド開発試行事業」を実施。12の商品等が採択された。【鴻巣市】
- 北本市では森林セラピーに関する取り組みとして10月に企業健康保険組合員を対象としたモニターツアーを開催した。2021年11月・12月にもツアーを予定し一般募集を行っている。【北本市】
- 桶川飛行学校では第1回企画展示となる「令和3年度収蔵品展 熊谷陸軍飛行学校の記憶」が開催された。【桶川市】

※鴻巣市のコスモスフェスティバル・おとりまつり、北本市のさくらまつり・北本まつり、桶川市の紅花まつりなどの大型イベントが新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。



鴻巣市こうのとりのりブランド開発試行事業



桶川飛行学校平和祈念館 収蔵品
（出典：企画展チラシ）

3）関係者間のネットワーク支援に関する取り組み

- 川の国応援団活動として、鴻巣市内の団体が吹上元荒川でカヌーを使用した美化活動が行われた。【埼玉県・鴻巣市】

2. 来年度の取り組み計画（案） ～生物の生息環境保全に関するプラン～

生物の生息環境保全に関するプランに関する来年度計画（案）

アクションプラン			取り組みの推進	
項目	目指すもの（10年後）	取り組み内容（例）	R3主な活動内容	R4活動方針（案）
（プラン①） 合同生きもの 調査の実施	◎エリア内の環境データが蓄積され、各種取り組みの検討・実施に役立っていること。 ◎また、調査の実施を通じ、 <u>取り組み認知度が向上（理解者・賛同者の増加）</u> していること。	◎関係者各自で実施している水辺の調査を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎関東エコネットで公表されているコウノトリ採餌量調査の手引きを活用するなどし、各地域の河川・農地等における統一した手法による調査実施を支援します（調査体験会の運営補助や機材の貸出し等）。	1）生物調査に関する情報収集 ・協議会関係者を対象に本年度の生物調査の実施状況について情報収集を行った。 ・その結果、定期的な生物モニタリング（国・河川水辺の国勢調査等）のほか、各種テーマ調査（鴻巣市・水田動物、北本市・カタクリ、埼玉県・クビアカツヤカミキリ）の実施状況を把握した。 2）水田調査体験会の開催 ・河川～水田の連続性を学ぶ調査体験会を実施した（感染症予防に配慮し協議会関係者のみ参加）。 ・開催結果はニューズレター（準備号）にとりまとめるなどし、関係者間の情報共有を図った。	1）河川～水田のエコネット生きもの調査体験会を、参加者公募形式で実施 する。また、水田の動物量調査の各自実施を呼びかける。 2） 各自治体・団体等で実施される 生物調査について、参加案内や結果データの共有 をお願いする（事務局を介した情報共有の推進）。 3）収集した生物データの整理や、新たな生物データの収集・活用方法について検討 する（アンケート形式による情報収集、流域生物データベースの構築、コウノトリ定着ポテンシャルの分析など）。
（プラン②） ゴミ・外来種問題 への対応	◎エリア内において、 <u>環境美化活動とともに、外来種駆除活動が実施（実施回数・場所の増加）</u> されるようになること。	◎関係者各自で実施している清掃活動（プラスチックごみ対策など含め）や外来種駆除対策を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎清掃時等にも活用できる外来種駆除の手引きを作成・配布するなどし、各地域の河川・農地における外来種対策を支援します。	1）協議会関係者による清掃活動・外来種駆除に関する情報収集 ・協議会関係者を対象に本年度の清掃活動・外来種駆除の実施状況について情報収集を行った。 ・その結果、河川清掃（春・秋に分けて荒川、いっぺ側、元荒川、市野川など多数）、市内・町内清掃（随時）が多数実施されている状況を把握するとともに、2件の活動について取材した。 2）ゴミ・外来種対策の連携実施に関する検討 ・次年度以降、清掃活動時に配するなどし、ゴミ・外来種対策を推進するための資料の収集・新規作成（オオキンケイギク駆除啓発用リーフレット等）を行った。	1） 各清掃活動（春・秋）や外来種駆除活動（随時）において、作成した 外来種啓発用資料を配布 する。（各自治体・団体等へ資料送付するとともに、一部、事務局が参加・解説する。） 2） ごみ問題・外来種対策を相互促進するための、 さらなる方策の検討
（プラン③） 環境学習・観察会 の推進支援	◎エリア内において、 <u>環境学習・自然観察会が、いまより広く・数多く実施</u> され、地域の学習機会が増えていること。 ◎また、それにより <u>取り組み認知度が向上（理解者・賛同者の増加）</u> していること。	◎関係者各自で実施している環境学習会や自然観察会を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎本プランで挙げた指標種・シンボル種の学習・観察会の実施を支援（開催の運営補助やテキストや機材の貸出し等）します。	1）協議会関係者による環境学習・観察会に関する情報収集 ・協議会関係者を対象に本年度の環境学習・観察会の実施状況について情報収集を行った。 2）次年度以降の環境学習・観察会の推進支援に関する意見交換 ・次年度以降の取り組み推進に向けて、環境学習・観察会にあるとよいと思う支援策について意見収集した。 ・次年度以降、環境学習・観察会で使用できる学習用パネル・ポスター（コウノトリってどんな鳥等）を作成した。	1） 各自治体・団体等で実施される 環境学習・観察会の告知情報や結果広報の共有 をお願いする（事務局を介した情報共有）。 2） 上記の環境学習・観察会において、作成した 学習用資料を配布 する。（各自治体・団体等へ資料送付するとともに、一部、事務局にて参加・解説を行う。） 3）環境学習・観察会を促進するための支援方策（資機材・人材）の検討
（ベースとなる取り組み） これまでの活動継続	協議会関係者が、河川や農地、里山林、公園等でこれまでに実施してきた各種取り組みを、それぞれ、引き続き推進する。		●生物調査、清掃活動、外来種駆除活動、環境学習・観察会などの適宜実施（実施状況は上記プラン①～③において情報収集した）。 ●その他、鴻巣市によるコウノトリ野生復帰センター完成とコウノトリ飼育開始、荒川上流河川事務所による自然再生事業の推進（大間地区湿地再生）など。	●各自治体・団体等における各自取り組みの推進、および推進協議会における上記取り組み情報の収集・共有 ●取り組み効果分析に関する検討（生物や生物生息場の保全効果等）

2. 来年度の取り組み計画（案） ～地域振興・経済活性化に関するプラン～

地域振興・経済活性化に関するプランに関する来年度計画（案）

アクションプラン			取り組みの推進	
項目	目指すもの（10年後）	取り組み内容（例）	R3主な活動内容	R4活動方針（案）
（プラン④） 各種広報の 展開	◎エリア内において、取り組み認知度が向上し、荒川流域エコネット地域づくりへの新たな理解者・賛同者・参加者が増えていること。	◎関係者各自で実施している環境関連の催事や拠点等を、連携・協力（相互参加や技術交流、エリア共通カレンダーの整理等）により盛り上げます。 ◎荒川流域エコネット地域づくりの取り組みや、地域の活動・魅力に関する広報を推進（ロゴマークやPR資料の検討・作成、それらを活用した行事出展等）します。	1）各自治体・団体のイベント情報の収集・整理 ・各自治体が独自で実施している環境関連のイベントや拠点等について情報を収集・整理した。 2）本取り組みPR資料の作成 ・アクションプランについての広報用デジタルサイネージ動画、及びパネルの製作を行った。 ※画面共有：アクションプラン広報動画（5タイプ） ・ロゴマーク案を作成し、案に対する一般人気投票（各自治体・団体等の施設にパネル設置）を実施した。 ※12月予定のWGで投票最終結果を報告予定 3）流域内外の環境イベントでのPR検討 ・作成したPR資料を活用し、流域内の複合店舗にて広報展示を行った。複合店舗での展示は、今後も継続的に実施予定。 ※別添⑦）流域内複合店舗での広報展示及びWS企画（案）	1）作成した広報資料（動画・パネル）の各自治体・団体の拠点施設、イベントでの展示を行う。 2）ロゴマークの各種資料への統一掲載を行う。 3）各自治体・団体等の広報媒体によるエコネットに関する情報発信（必要に応じて事務局を通じて発信）を行う。
（プラン⑤） エコツアーの 推進支援	◎エリア内において、自然環境を活用した地域観光が実施されていること（新たな集客要素の提供による地域活性化への貢献）。	◎関係者各自で実施している観光振興の対策を、自然の恵みを活用して支援します。 （例：自然観察スポット、特産品（コウノトリのエサ資源にもなるドジョウ等）、サイクリング・ウォーキングマップ等の関連情報の収集・整理・発信、観光スポットの生態的な価値に関する情報提供、自治体同士の連携によるスタンプラリー、森林セラピー等）	1）流域共通マップの作成検討 ・各自治体の観光スポット、サイクリング・ウォーキングコース等、各自治体の観光情報を集約した流域共通マップ（Googleマイマップ）のデータベース版を作成した。 ※画面共有：流域共通マップ（Googleマイマップ） 2）川の営みに関連する特産品・歴史情報の収集・整理 ・各自治体の特産品や治水関連スポット等の情報を収集整理した。整理結果は流域共通マップ作成に活用した。 3）各自治体の観光メニューと、荒川流域エコネットの関連付けによる取り組み支援 ・流域内複合店舗主催での物産展（地産地消）とコラボした広報展示・ワークショップ（WS）を企画した。 ※別添⑦）流域内複合店舗での広報展示及びWS企画（案）別紙 ・観光情報等を収集すべき観光関連部署・団体について各自治体へのアンケートにより情報収集を行った。	1）Googleマイマップ等の関係者間での共有、及び情報の追加や活用方法等に関する意見交換を行う。 2）各自治体・団体等で実施される観光振興の取り組みについて、告知情報や結果広報の共有をお願いする（事務局を介した情報共有）。
（プラン⑥） 関係者間の ネットワーク支援	◎エリア内において、自然環境・地域振興に取り組む地域関係者間の新たな連携・交流が図られ、各自の取り組み発展に寄与していること。	◎さまざまな場所・機会において、個人や市民団体、企業、自治体等の地域関係者間の連携促進を図ります。 （例：流域情報の収集・整理・発信、交流会・発表会や人材紹介による地域関係者同士の連携・交流の促進、情報共有のためのSNS活用等）	・プラン⑤の流域共有マップは関係者間の情報共有ツールとして活用していく。	1）SNSを介した環境系団体・観光系団体の活動情報の収集を行う。 2）関係者間のネットワーク支援のための、さらなる方策の検討。
（ベースとなる取り組み） これまでの活動継続	協議会関係者がこれまでに実施してきた、環境に配慮した地域振興に関する各種取り組み（観光・商業・地域連携等）を、それぞれ、引き続き推進する。		●イベントや地域の特色（特産品・歴史等）の情報収集・整理などの適宜実施。 ●その他、本取り組みPRの推進（情報発信）など。	●各自治体・団体等における各自取り組みの推進、および推進協議会における上記取り組み情報の収集・共有 ●取り組み効果分析に関する検討（経済的な価値・便益等）

① 第2回 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

●令和3年3月4日（木）14：00～15：30 ●Web会議形式（Zoom）

項目	No	主なご意見・ご指摘（要旨）	取り組み方針等
生物の 生息環境保全 に関する プラン	1	●コウノトリの野生復帰を目指すにあたり、多くの生きものが生息できる環境づくりが重要だと考えている。	●今後、本推進協議会で地域関係者の生物生息環境の保全・再生に関する取り組み状況について情報共有を図っていく。【第3回推進協議会：議事（2）-2）にて事例紹介】
	2	●アライグマの外来種問題を抱えており、広域で連携してアライグマの駆除対策を推進していくことを期待している	●令和3年度にアライグマを含む外来種問題や、オオキンケイギク駆除手法に関する啓発用資料を作成し、エリア・ワーキングにて意見交換を図った。次年度以降、これらの資料配布するなどし、外来種対策の普及・啓発を進める。【第3回推進協議会：資料3】
地域振興 経済活性化 に関する プラン	3	●エコネット地域づくりは北本市内の埼玉県自然学習センターの積極的な協力によって取り組みが進められており、森林セラピーを推進している場所でもあり、埼玉県自然学習センターと協力してアクションプランを進めてほしい。 ●今後のエコネットの取り組みにおいては住民参加が重要となるため、環境保全に取り組む市民団体ともエコネットの活動で連携させていただきたい ●地域の子どもたちをアクションプランの活動に巻き込んでいくことを要望したい。	●埼玉県自然学習センターを含む、県市町の施設に協力いただき、推進協議会ロゴマーク投票を実施した。【第3回推進協議会：資料2-p5】 ※なお、令和3年度はコロナ禍により、市民参加型の行事の開催や連携を見送ったが、次年度以降、社会情勢を踏まえて随時推進していきたい。
その他	4	●アクションプランと治水対策を情報共有しながら進めていくことが重要である。事務局から委員へ向けてどのような治水対策工事が行われているかもご紹介いただき、連携しながらアクションプランを実行していくことを期待している。	●荒川上流河川事務所では実施している治水対策について、今後、推進協議会のなかで紹介していく。【第3回推進協議会：議事（2）-2）にて事例紹介】



②令和3年度 第1回 荒川流域エリア・ワーキング

●令和3年7月2日（金）10：00～12：00 ●荒川上流河川事務所 大会議室・Web会議（Zoom）形式併用

項目	No	ご意見等（要旨）	取り組み方針等（案）
生物の 生息環境保全 に関する プラン	1	●荒川流域にコウノトリの餌生物がどれだけ生息しているか把握できていないところがあり、これから調査を行い、意識を高めていきたい。	●令和3年度は、水田の動物量を調査する体験会を、感染症拡散防止に配慮し協議会関係者のみで実施した。次年度以降、多くの人に参加いただける形式で開催していきたい。【第3回推進協議会：資料2-p3,7】 ●鴻巣市や荒川上流河川事務所では、水田・水路等での餌生物調査を実施している。【第3回推進協議会：議事（2）-2）にて事例紹介】
	2	●アレチウリやオオブタクサの駆除を実施している。どのようなやり方がいいか勉強しながら外来種対策を進めていきたい。	●令和3年度にアライグマを含む外来種問題や、オオキンケイギク駆除手法に関する啓発用資料を作成し、エリア・ワーキングにて意見交換を図った。次年度以降、これらの資料配布するなどし、外来種対策の普及・啓発を進める。【第3回推進協議会：資料3】
	3	●単なるごみ問題ではなくプラスチックごみによる海洋汚染やそれらを減らすことに結びつけていくとよい。	●エリア・ワーキングにおいて、次年度以降、河川清掃時にプラごみ啓発用資料配布（埼玉県HPにて公開）などの意識啓発を進めることについて意見交換を行った。
	4	●鴻巣市にコウノトリ放鳥拠点が整備され、放鳥から数年後には荒川流域に戻ってくることが期待できる。コウノトリ採餌ポテンシャルの高い場所を整理しておくこと、採餌・繁殖の場づくりを進めていくことが重要である。 ●埼玉県内の平野部を見ると、古い神社や城址等に古い巨木が残っており、営巣木となる可能性があるとするれば、その周辺に採餌環境を構築していくという視点もある。	●荒川上流河川事務所では、大間地区自然再生のほか、河川区域内の水田・水路調査を行うなどし、コウノトリ生息ポテンシャルの検討、堤内外のネットワーク向上の検討を進めている。 【第3回推進協議会：議事（2）-2）にて事例紹介】 ●寺社仏閣・巨木等の情報を収集し、Googleマイマップにデータを蓄積した。令和4年度以降も、順次、データ拡充を図っていく。【第3回推進協議会：資料2-p6】
地域振興 経済活性化 に関する プラン	5	●（協議会ロゴマークについて）。なにが埼玉県らしさ・荒川流域らしさがあるかといふ。	●令和3年度、荒川・入間川のかたちを模したものの複数数のロゴマークを上げて、推進協議会関係者と連携・協力しながら、流域エリア内の各施設・庁舎等で市民参加型の人気投票を行った。【第3回推進協議会：資料2-p5】
	6	●協議会の正式な英語名は無いとみられる。全体会議の際に思いつけば良かったが、荒川流域からうまく提案できればと思う。正式な英語名があると海外へのアピールとなる。	●協議会の英語名の案をいくつか挙げてエリア・ワーキングにて意見交換を行った。第3回推進協議会にて、最終候補を挙げる。【第3回推進協議会：議事（3）にて報告】



③令和3年度 第2回 荒川流域エリア・ワーキング

●令和4年 1月14日（金）14:00～16:00 ●荒川上流河川事務所 大会議室・Web会議（Zoom）形式併用

項目	No	ご意見等（要旨）	取り組み方針等（案）
生物の 生息環境保全 に関する プラン	1	●外来種問題は、捕食・被食の関係をどう制御するか、生態学的な視点で考えていくことが大切である。 ●今後、どこでどのような影響が生じているか、全体像を整理し、エコネット関連の取り組みとの関係性を分かりやすく示せるとよい。	●令和4年度以降の「生物の生息環境保全に関する取り組み」において、ご指摘の点を活かしていく（生物調査や外来種への対応のなかで整理を進めるなど）。
	2	●利根川から荒川にかけて水路が通っており、工夫すれば用水路などに魚類が遡上してくる可能性もある。 ●釣り人などから「荒川・利根川流域の低地のどこにどんな魚がいるか」を聞き取って整理するのもよいのではないか。	●令和4年度以降の「生物の生息環境保全に関する取り組み」において、ご指摘の点を活かしていくため、次年度予定に「新たな生物データの収集・活用方法の検討（アンケート形式による情報収集など）」を加えた。
	3	●植生が古くから残されている寺社・城跡などには、大型のクロマツなどが生育していることがある。そうした文化財として保存されている巨木も、コウノトリが繁殖場として利用する可能性があることから、分布データをコウノトリ定着ポテンシャルマップへ反映できるとよい。	●令和4年度以降の「生物の生息環境保全に関する取り組み」において、ご指摘の点を活かしていくため、次年度予定に「新たな生物データの収集・活用方法の検討（コウノトリ定着ポテンシャルの分析など）」を加えた。
地域振興 経済活性化 に関する プラン	4	●広報紙やHPで取り上げやすいよう、アクションプランの策定や、取り組み実施状況など、市民の皆さんに情報提供できる事項をとりまとめてもらえるとよい。	●市民の皆さんに参加いただける行事の告知とあわせた取り組み広報など、今後の対応について事務局にて検討し、改めて協議会関係者にご協力をお願いしたい。
	5	●今後の取り組み評価のため、さまざまな方面のデータを収集しておくことが重要であり。特に、エコロジカル・ネットワーク形成もたらす経済的価値に関する評価は重要になると思われる。	●令和4年度以降の取り組みにおいて、ご指摘の点を活かしていくため、次年度予定に「取り組み効果分析に関する検討」を加えた。

